

じゅうろうまるはせこ

かめかん

# 十郎丸長谷遺跡から甕棺が出土

## 発掘新聞

令和3年度第1号

編集・発行

九州歴史資料館

弥生時代の甕棺墓と

奈良時代の集落跡を発見

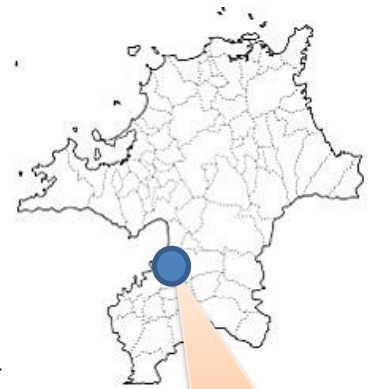


復元中の甕棺

久留米市北野町十郎丸は、久留米市東部の筑後平野に位置し、小松菜やほうれん草などの田畑が一面に広がる農業が盛んな場所です。

ここでは、県道久留米筑紫野線の建設工事に先立ち、令和2年11月から令和3年6月までの間、発掘調査を行いました。

今回の調査により、遺跡からは弥生時代後期（1～3世紀頃）の竪穴遺構や甕棺墓、奈良時代（8世紀頃）の竈がついた竪穴住居跡や井戸、また江戸時代（17世紀～19世紀）の溝が多数検出されました。遺跡からは弥生土器の甕や壺・土師器・須恵器の坏などの遺物が60箱出土しました。



十郎丸長谷古遺跡



多量に土器が出土した竪穴遺構

遺跡の中で特に注目される遺構として、方形に掘られた弥生時代後期の竪穴遺構があります。5箱以上の弥生土器の甕や壺が大量に出土しました。また圃場整備で上部を壊されていましたが、卑弥呼が生きていた時代に作られた甕棺が1基検出しました。残念ながら内部には何もありませんでしたが、甕棺の内側に朱が塗られた痕跡を確認しました。

周辺には、弥生時代の集落や墓地がさらに広がっていた可能性もあります。今後の調査で新たな発見があるかもしれませんので、続報をお待ちください。

また、遺跡近くにある北野天満宮（祭神 菅原道真）では、福岡県無形文化財に指定されている北野くんちが例年10月第3日曜日に行われています。御神輿の下をくぐると無病息災でいられるとのことですので、今年の秋見学に行かれてみてはいかがでしょうか。（坂本記者）



北野くんちの御神輿